

製品名: PKD2 (リン酸化Ser876) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05276**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	96kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKD2
別名	PRKD2; PKD2; HSPC187; Serine/threonine-protein kinase D2; nPKC-D2
遺伝子 ID	25865.0
SwissProt ID	Q9BZL6
免疫原	抗血清は、Ser876 のリン酸化部位周辺のヒト PKD2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 829-878

背景

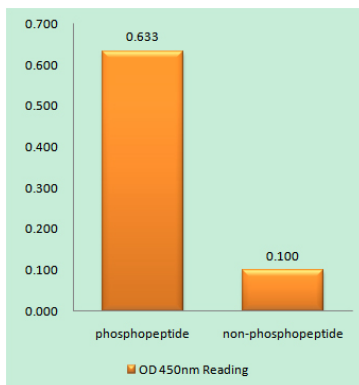
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼのタンパク質キナーゼ D (PKD) ファミ

リーに属する。胃癌細胞において、このキナーゼはホルボールエステルだけでなく、コレシトキニン B 受容体 (CCKBR) を介してガストリンによっても活性化される。トランスゴルジ体 (TGN) においてジアシルグリセロール (DAG) に結合し、TGN からの基底外側膜タンパク質の排出を制御する可能性がある。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素制御: ジアシルグリセロールおよびホルボールエステルによって活性化される。、機能: カルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的タンパク質キナーゼ。、PTM: 自己リン酸化。ホルボールエステルは自己リン酸化を刺激する。Ser-876 のリン酸化はキナーゼの活性化状態と相関する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PKD サブファミリー。、類似性: 1 つの PH ドメインを含む。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 2 つのホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含む。、組織特異性: 広く発現している。、

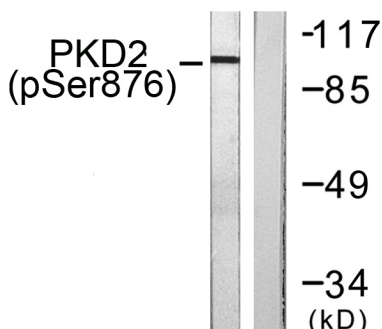
研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B 細胞受容体; AMPK

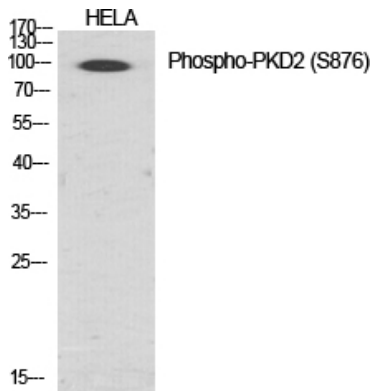
画像データ



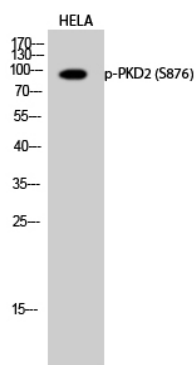
PKD2 (リン酸化 Ser876) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



PMA 250 ng/ml 15 ' で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを PKD2 (リン酸化 Ser876) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PKD2 (S876) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して、様々な細胞に対するウェスタンブロット解析を行った。



1: 1000 希釈のホスホ PKD2 (S876) ポリクローナル抗体を用いた HELA 細胞のウェスタンブロット解析